

心とからだを大切に

～体にまつわる漢字～

心



シン
こころ

心臓の形。古くは、心臓が生命のみなもとであるとともに、物事を考える場所であると思われていた。心臓の意味から「こころ」の意味に使われるようになった。

音を表すのは豆。豆は脚の高い食器の形で、まっすぐのばした首の上に人の頭がある形に似ている。また、頁は、儀式用の帽子をかぶった人を横から見た形。それで、頭は「あたま、かしら」の意味に使われる。



頭

トウ・ズ・(ト)
あたま・(かしら)

顔



ガン
かお

もとの字は顔で、音を表すのは彦(彦)。彦は厂(額の形)に文(朱色で一時的に描かれた入れ墨)を加え、その色の美しさを彡で表している。彡は色や形の美しいことをいう。頁は、儀式用の帽子をかぶった人を横から見た形。顔とは、一定の年齢に達した男性が、額に美しい入れ墨を描いて、成人式をしている時の顔つきをいう。「かお」の意味となる。

目の形。古くは横長の形であるが、今は縦長の形である。体の中で、目は外の世界と接する第一の部分で、目を使った漢字としては、臣・民・望・監・相・限・見・看などがあり、目がその一部分として使われている。




目

モク・(ボク)
め・(ま)

耳

(ジ)
みみ



人の耳の形。耳は目とともに人の感覚のうちで最も大切なものである。耳と口（口は  で、神への祈りの文である祝詞を入れる器の形）と壬とを組み合わせた形の聖は、神への祈りの言葉を唱え、つま先立って神に祈り、神の声（神のお告げ）を聞くことができる人をいう。

頭の髪の毛と目とを書いた首の形。目は顔面を表し、その上に頭髪をつけている。首は人体の中でも特に大切な部分であるから、「中心になる人、おさ、かしら」の意味となる。また、首は人体の最上部にあるから、「第一、はじめ」の意味にも使われる。



首

シュ
くび

手

シュ
て・(た)



手の形。手首から先の、五本の指を開いた形である。

ひざの関節から下の形。上部の口は関節の部分、下部の止は足跡の形で、足先を示している。足は足の形全体ではなく、ひざと足先とを組み合わせて「あし」を示している。「あし」の意味のほかに「たりのる、たる、たす」の意味にも使う。



足

ソク
あし・たりのる
たる・たす

体

シュ
て・(た)



もとの字は體。もとは神に供えるいけにえの動物の「からだ」を表す。のちに、人の「からだ」の意味にも使い、「かたち、すがた」の意味にも使われる。